

## 大豆カメムシ類(種類・発生編)

### 1. 種類

本県で問題となる吸実性カメムシ類には、ホソヘリカメムシ、イチモンジカメムシ、アオクサカメムシ等があります。



ホソヘリカメムシ(上:卵、左下:幼虫、右下:成虫)  
幼虫は蟻にそっくり

イチモンジカメムシ(左上:卵、右上:幼虫、左下:成虫)  
アオクサカメムシ(右下:成虫)

卵は10～20個をかためて生む

### 2. 被害

カメムシは幼虫、成虫ともに莢内の子実から養分を吸います。早い時期の莢伸長期の加害では、落莢や不稔莢となり、子実肥大初期の加害では、未熟のくず豆となります。子実肥大中期以降の加害では、吸汁により変色や変形した豆となります。

### 3. 発生

予察灯による大豆カメムシ類(成虫)の誘殺数をみると、ホソヘリカメムシは7月上旬からしだいに多くなり、8月にピークとなっています。また、イチモンジカメムシはホソヘリカメムシほど大きなピークはなく7月から10月上旬にかけて誘殺されています(図1)。ただし、これらは誘殺された成虫数であり、このあと、成虫が卵を産み増えていくので、ほ場の密度が高まるにはタイムラグがあります。

実際の大豆ほ場(無防除区)における大豆カメムシ類の発消長(成虫・幼虫別)をみると、大豆の開花期以後、しだいに密度が高まり、8月下旬～9月下旬にかけて密度が高くなっています。これは成虫の密度が高まるのではなく、特に、大豆ほ場内で産卵・孵化した幼虫が急増することによるものです(図2)。

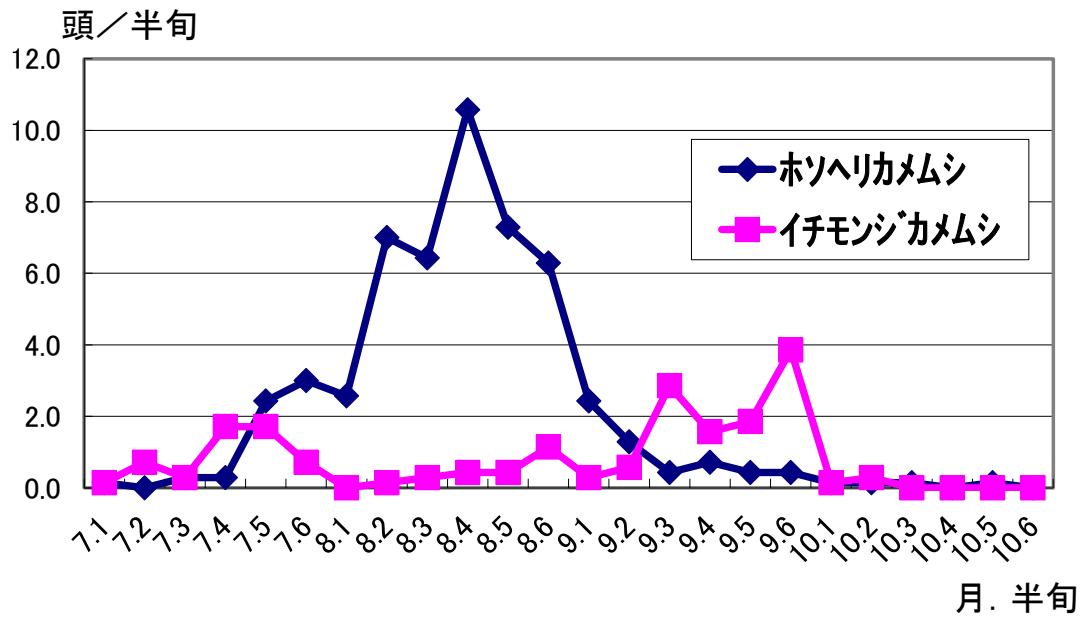


図1 カメシ類時期別誘殺数

(かほく市・1994～2001年平均)

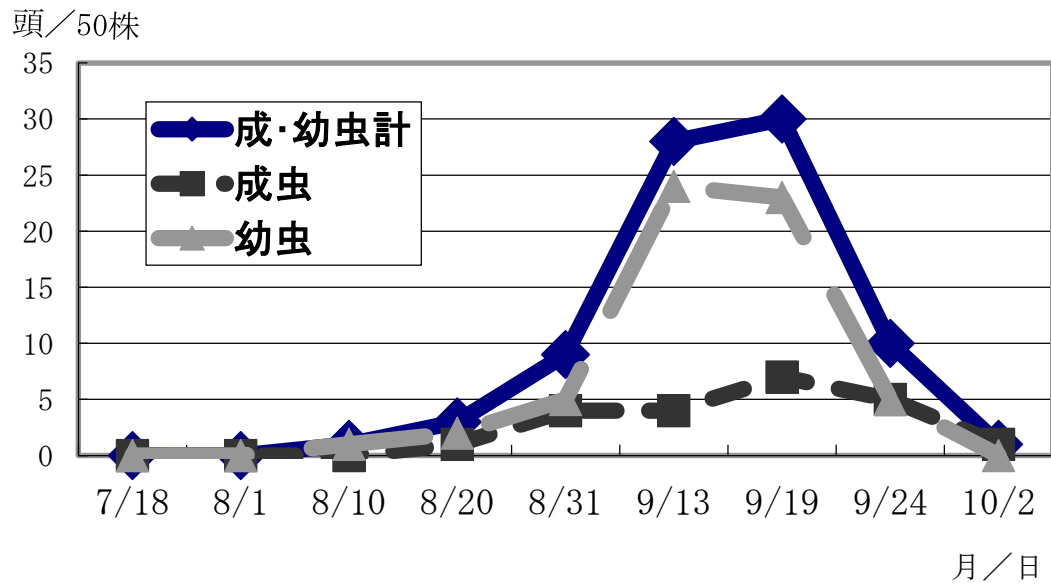


図2 カメシ類発生消長

参考) 品種エンレイ、開花期7月18日・成熟期10月7日  
 優占種ホソヘリカメシ